

株式会社ケーブルネット下関
放送番組審議会 議事録

開催:平成27年11月25日

【出席者】

＜放送審議委員＞

河向 英利 氏(会長) (下関商工会議所 事務局長)

島田 實 氏(副会長) (元(株)長府製作所)

吉岡 輝生 氏 (元西中国信用金庫)

砂原 雅夫 氏 (下関市 総合政策部長)

沼 孝宏 氏 (サンデン交通(株)総務部長)

梅本 裕英 氏 (山口銀行 常務取締役)

山本 昌信 氏 (林兼産業(株)常任監査役)

宇和島正美 氏 ((株)みなと山口合同新聞社執行役員営業局長)

※順不同

株式会社ケーブルネット下関 代表取締役社長 鳥居 吉治

株式会社ケーブルネット下関 常務取締役 藤野 悦郎

西日本メディアセンター センター長 仲川 圭

西日本メディアセンター アシスタントマネージャー 折田 康男

西日本メディアセンター 山下 真由美

1. 開会挨拶

1)河向会長 挨拶

2)新委員 挨拶

宇和島正美 氏((株)みなと山口合同新聞社執行役員営業局長)

砂原 雅夫 氏 (下関市 総合政策部長)

梅本 裕英 氏 (山口銀行 常務取締役)

3)ケーブルネット下関 鳥居社長 挨拶

地域密着の企業として、新企業理念の「お客様と地域社会に寄与する」ことを
目指し、昨年の番組審議会でいただいた貴重な意見を生かして番組作りに
取り組んできた。今年も忌憚のない意見を聞かせていただきたい。

※ここで、今年から着任した仲川センター長と折田アシスタントマネージャーを紹介

2. 番組基準に抵触する映像手法を用いた放送実施に関する行政指導について

(報告)

2014年12月1・13・17・24日に放送したスペースシャワーTVでミュージックビデオに、抵触する光点滅が用いられていたことが判明した件について、総務省への報告内容と指導内容を説明。

梅本委員)番組内容のチェックはどのような方法がとられているのか。

折田) 制作・編成者が放送前に見ることでチェックしている。

河向委員)点滅回数の基準は、どこの局も同じなのか。

折田) 社団法人日本民間放送連盟に加入している局は同じ基準である。

仲川) 自主規制で実際に「見る」ことで未然に防いでいる。

砂原委員)放送事業者にしか指導がないのか。制作者への指導は？

仲川) 事業者から制作者へ指導している。

3. 番組編成方針について(報告)

J:COMの2つのコミチャン「Jテレ」と「Jチャン」について説明。

「Jテレ」は全国74チャンネルをつなぎ地域情報を発信する“シティープロモーション”、「Jチャン」は下関に特化した“どローカル”をキーワードに、それぞれのコンセプトを明確にした。

4. 2015年度放送番組内容について

1) ダイジェストDVD視聴と説明

「コチラふくふく情報局」

今年3月から隔週→毎週更新放送へ、更新頻度を上げて放送している。

まちや神社の散策、仕事体験、交流など毎回さまざまコーナーを設けている。

「突撃！山D」

月2本放送。高校バスケ全国大会出場校の紹介や高齢者のカラオケ大会、マラソンの練習会を取り上げるなど、放送内容報告。

「ほっちゃタイム」

30分番組→54分へ放送尺を拡大。スポーツ系とイベント系に分けて放送。

「いきいき市民講座」

月2本、局で収録。30分番組。10月には200回放送を記念してDVDを下関市立中央図書館へ寄贈。

「地域発！！週刊シティプロモーション ご当地サタデー」 ※Jテレ

10月から放送スタート。毎週土曜日14時から生放送。

八木亜希子アナをMCに各自治体の市長・区長・地元タレントに出演いただき各地域の紹介をしている。

下関市の出演も、市長や担当者に投げかけている。

■ 地域コミュニケーション部の新設と地域プロデューサーの任命について

各関係機関、地元キーマンとの関係を短期間で強固にする。

■ コミチャン以外の防災地域情報の発信・・・スマートフォンでの情報提供を考えている。

2)質疑応答

宇和島委員)放送告知や宣伝はどうなっているのか。

仲川)課題。出演者など浸透はしているものの、未だ知らない人への告知をしなければならない。紙媒体、WEB、SNSなどで事前プロモーションを行うようにしている。営業スタッフも巻き込んで告知や情報収集できるよう協力要請している。

宇和島委員)山Dは、あのテンション「絶叫系」で話す意味があるのか。

自分自身で編集しているとのことだが第三者の目でチェックしているのか。

仲川)例えば、「ほっちゃタイム」といった演出をあえてしていない番組もある。

山Dのレポートは一つの演出。とはいうものの、一意見としてしっかりと受け止めたいと思う。

宇和島委員)「下関さんぼ」などは場所の地図がほしい。「ほっちゃ」も演出無いのが

狙いとはいうものの、場面転換でのナレーションなどが無いと番組とは言えないのではないか。「Jテレ」と「Jチャン」の明確化といっても、両極端もどうか。子ども相撲の番組は流すだけでなく、解説もあると良い。

砂原委員)「どローカル」とは、どのくくりでのローカルなのか？あまりエリアが狭すぎてもマニアックすぎて関係ないと思えない番組になりかねない。

「川中豊町の夏祭り」を普通に見せても、関係ないエリアの人はすぐにチャンネルを変えてしまう。山Dのレポートはそれをいろんな人に見てもらうための工夫ともいえるのではないか。

「コチふく」の「寺社巡りコーナー」で生野神社の説明部分は、字幕が多い。説明は簡略化し文字を少し大きくした方が見やすい。

吉岡委員)途中から見た人のためには、テロップできちんと説明した方が分かり

良いこともあるのではないか。

折田)テロップの大きさや字数は、映像も含めてのバランスだと思う。

たくさんの字数のテロップ1枚を30秒出すなら2枚にして15秒ずつ出すなど工夫したい。第三の目でしっかり見極めたい。

島田委員)番組ガイド誌では、放送内容が詳しくわからない。EPGでもあまり見ない。民放では新聞で分かるから、コミチャンも知りたい。

仲川)番組表が2か月前に校了するため、詳細の内容が間に合わない。

EPGも1週間前に入れているが、正直マンパワーが追い付いていない。課題。

河向委員)山Dの演出はアリ。レポートにメリハリ無いと、取り上げられているエリアのことを知らない人は、チャンネルを変えようと思う。

吉岡委員)山Dレポートで演出するから、いろんな切り口で見ることができる。同じ夏祭りでも他のエリアの自治会では、どんな取り組みをしているのか見てみようと思える。特に、自治会の役員や役所の職員、学校の先生など。

川棚エリアの延伸はどこまでできているのか。

鳥居)小串の手前まで延伸した。

吉岡委員)延伸も有効利用したらいいと思う。学校行事とか。

仲川)今でも卒業式などの学校行事を取り上げているので川棚もやりたい。

「どローカル」は、“下関”というより、学校区ごとで考えている。

アクセス、地図など見られるための工夫がまだ足りていないと実感。

吉岡委員)「下関さんぽ」で放送している場所は、下関市民でも分かりづらい。地図が欲しい。1回の放送で映るエリアが狭すぎて、期待したところまで撮られていない。BGMはその校区内の校歌でも面白いと思う。

仲川)学校区紹介も考えている。教育委員会にも相談したい。

吉岡委員)何年後に放送しても分かるような構成がいいと思う。

砂原委員)「コチふく」で放送しているクイズは、例えばその回で紹介した神社に関係したクイズを採用した方がより、いいのではないか。

梅本委員)プレゼントの応募はTV画面でできないのか。

仲川)今のところそのシステムを導入していないのでできない。貴重な意見として参考にさせていただく。

以上